



社員教育に力を注ぐ市内唯一の成長警備保障会社

警備保障会社は一部を除き小規模な企業が多いが、同社は警備員が230人を数え、業界では中堅クラスだ。

警備会社は「365日事故が起きないのが当たり前」で、仕事に対する信頼性がなによりも求められる。このため同社では、人を育てることに力を注ぎ、各部門の仕事に沿ったカリキュラムを作成し、研修を行っている。特に注意するのが言葉づかいで、常に正しい対応をするよう指導しているという。このほか、現場経験の豊富な社員が勤務先を抜き打ちで巡回、現場に即した研修を行い、仕

事の質を高めている。現場によって求められるサービスが異なるため、警備員個々の資質や体力に応じた、交通誘導、施設保安の2部門に分けて配属している。警備は制服が一般的だが、大型ショッピングセンターなどの警備では万引き犯の確保のため私服で巡回する場合もある。屋外の仕事が多いため、警備員は男性が中心だが、大型ショッピングセンターなどでは万引き犯の確保にあたる警備員は売り場の雰囲気や壊さないよう女性を多く

採用し、取引先にも好評だ。平成18年に2代目社長に就任した石井正寿さん(41)の父・敦さんが昭和56年に「多摩警備保障有限公司」の名称で創業した。地域密着型で続けた仕事は順調に成長、現在は千葉、池袋、西多摩に営業所を設けるまでに広がった。業務拡大にともない平成20年に社名を変更した。市内では「多摩川いかだレース」「みんなの狛江夏まつり」「市民まつり」などのイベントの警備にも協力している。

ティーエムエス

DATA▶ ☎3480-3353 中和泉 3-30-7 年中無休



この欄で紹介したい特徴ある品物やお店がありましたら地域活性化課へお知らせください

地域の安全を守るために貢献したいと創立された(株)ティーエムエス(Tama Manpower Security)は、市内唯一の警備保障会社。

同社では、企業や建物などの「施設・保安警備」、車の誘導などを行う「駐車場警備」、工事現場などの「交通誘導警備」、イベント会場の「雑踏警備」の4部門の仕事を行っている。

あの店...この一品



矢野市長(左)に誓いの言葉を述べる吉澤さん(中央)、高岡さん

絆をテーマに成人式 735人が新しい船出

狛江市の成人式が1月12日、エコルマホールで催され、晴れ着姿の新成人たちは社会人としての決意を新たにするとともに、同級生や恩師との歓談を楽しんでいた。

ことしの新成人は、昨年より1人少ない735人(男393人、女342人)で、式には市外の居住者も含め430人が参加した。

ことしの式は、実行委員

長の徳島美帆さんら11人の新成人の委員が「絆」をテーマに秋から準備を進めてきた。

第1部の式典では、第三中学校の生徒が箏を演奏、先輩の門出を祝った。矢野裕市長が「狛江という絆をいつまでも大事にするとともに、人間の絆が大切にされるやさしい社会を築くため、みなさんの行動力と正義感を発揮してください」と祝いの言葉を述べた。これに応え新成人代表の吉澤那緒さんと高岡なつみさんが「20年間に狛江でたくさんの出会いとさまざまな体験ができました。狛江で育んだ豊かな関係と心を支えに生きていきたい」と誓いの言葉を述べた。

第2部のアトラクションでは、「多摩川戦隊コマレンジャー」のショーや抽選会、小

中学校の先生のメッセージや当時の写真の投影、立食パーティーなどが行われた。徳島さんら実行委員は「初めてのことも多く準備がたいへんでしたが、たくさんの方が出席して楽しそうにしているのがよかった」と喜んでいた。

多摩川でどんど焼き 小正月行事楽しむ

狛江市の小田急線鉄橋上流の多摩川河川敷で1月11日、どんど焼きが行われ、家族連れやお年寄りなど約1,000人は、竹やカヤで組んだ高さ数メートルの円すい形の小屋から上がる大きな炎や煙に喚声を上げ、伝統の小正月行事を楽しんでいた。

狛江市ボーイスカウト連絡協議会(服部英広会長)が催しているもので、現在、どんど焼きは市内ではここだけ。会場には



大きな炎と煙を上げるどんど焼き

まち

正月飾りなどを持った人が次々と訪れ、小屋の周囲だけでなく、堤防上にも多くの人が並んで点火を待った。

午前10時過ぎに女子の隊員がたいまつで小屋に火をつけると、黒い煙とまつ赤な炎が勢いよく上り、観客からはどよめきが上がった。

水辺の楽校

多摩川の小さな仲間たち

メダカ

メダカは日本に生息する最も小さな淡水魚だ。名前の由来は、目が上の方についているから「目高」。または目がでかいのでメダカがなまったともいわれる。

水田や池などの止水域や流れのゆるい小川にすみ、英語ではライスフィッシュ(米魚)と呼ばれる。

田んぼの減少や用水路の整備など、彼らが暮らしやすい環境が少なくなったことから全国的に数を減らし、いまでは絶滅危う種に指定されている。「和泉」の地名をいくつも残す狛江では、かつてわき水が無数の水路を

元気に泳げメダカの学校



つくり、童謡「めだかの学校」のようにメダカが群れて泳ぐ光景がごくごく普通に見られたという。

以前、いつも清掃活動に参加している子どもたちと「メダカたんけん隊」を結成し、野川や多摩川を調べ歩いたことがある。絶滅が懸念されるように、全くいないかと思いきや、意外にもかなりの群数が残って

いた。いま、その一部のメダカが水辺の楽校の小川で代を継いでいる。冬の間、川底の枯れ葉の下でじっと春を待つ彼らもうすぐお目覚め。ちょっと前の狛江では当たり前だったメダカが群れ、小プナが泳ぐ春の小川。そんな水辺の復活をめざして、どれ、もうひと踏ん張り。

文と写真=狛江水辺の楽校運営協議会副会長・竹本久志

夕アサイ

濃い緑色が鮮やかなアブラナ科の中国野菜。2月に多く収穫するので、日本ではキサラギナ(如月菜)とも呼ばれる。

原産地は中国・華中地方で、日本へは昭和10年代に入ってきたが、50年ごろから、日本各地で本格的に栽培されるようになった。

寒さに強いので、夏を除いていつでも収穫できるが、寒い時期と暖かい時期では形状が異なる。寒い時期は地面近くに葉が放射状に広がるロゼット状となり、大きなものは30cm以上になる。一方、暖かい時期は葉が立ち上がってそれほど広がらない。

霜があたると甘味が増すため、いまの時期が食べごろ。緑の色が濃いので葉が固そうに見えるが、アクや



くせが少なく、火の通りも早い。和風のお浸し、みそ汁の具など

和洋中を問わず、さまざまな料理に使える。カロチンやビタミンK、ミネラルを豊富に含んでいる。市内では、10年ほど前から栽培が

始まった。東野川の高木光雄さんは、9月に種子を株間の広いマルチシートに直まきし、約2,000株を栽培、10月中旬から出荷している。ただ、冬場は野菜が少ないため、ムクドリなどにねらわれ、鳥の害を防ぐのがたいへんだという。駒井町の松坂進さんは、10月上旬に種子をまき、11月上旬に30cm間隔のマルチシートに約200株を植え、12月末から出荷している。虫・鳥を防ぐためシートをかけて栽培している。

寒い時期が旬、中国渡りの万能野菜

絵手紙の輪 ▶◀

昭和50年代に日本で初めての絵手紙教室が狛江郵便局で開かれ、全国に広がった絵手紙の輪。絵手紙発祥の地である狛江でも多くの市民が創作に取り組んでいます。隔月で「絵手紙発祥の地-狛江」実行委員会の委員の作品を掲載します。



字・絵=小池恭子さん

絵手紙発祥の地・狛江